

五藤光学研究所 全天デジタル映像作品

黒い太陽 皆既日食の謎を追って

対象	ジャンル	投射システム
<ul style="list-style-type: none"> ■ 幼児 ■ こども ■ 一般 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 天文 ■ 科学全般 ■ 学習 ■ キャラクター 	<ul style="list-style-type: none"> ■ スライドのみ ■ VTR+スライド ■ 簡易全天投射機 ■ バーチャリウム

- 投射時間：約27分（+プレショー約5分）
- 季節：通年
- 制作年度：2011年
- 皆既日食の全天デジタル映像やCGによる日食現象の解説をします。

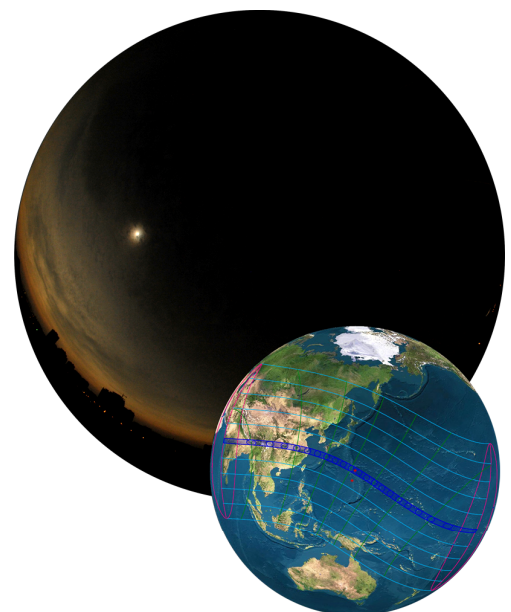
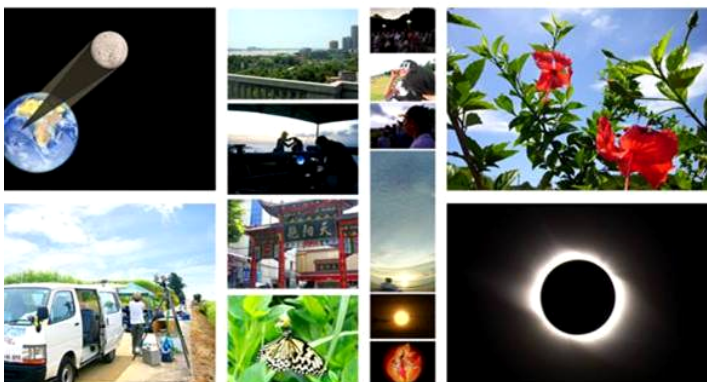


番組について

2009年7月22日、46年ぶりに日本の陸上で皆既日食が観測されました。私たちはこの皆既日食の全貌を、全天デジタル映像にすべく、慶応義塾大学の研究チームとともに、10台の全天カメラと5台のSuper Hi-visionカメラで追いました。奄美大島の美しい風景を舞台に繰り広げられた皆既日食。一瞬で暗闇に包まれる世界の畏怖と感動を、余すところなく観客の皆さんにお伝えします。本作品は、かけがえのない太陽という天体の恵みを伝えていくとともに、精密なCGによって、日食の起きる原因や、月の影が地表を動いていく様子なども盛り込みました。また、2012年5月21日に日本の各地で見られる金冠日食に向けた、観測のための心得などを解説したプレショーもあわせてご用意いたしました。

あらすじ

『皆既日食』。この類まれなる天文現象は、古来より人々のただならぬ関心を集めてきた。日食が太陽と月の絶妙な配置が織りなす現象である事がわかり、人工衛星が太陽の姿をつぶさに観測している現代になってもそれは変わらない。日食を見る者は、太陽が失われていく光景に『畏怖』と『感動』という相反する感情を抱き、太陽の恵みを改めて実感する。これからも、“黒い太陽”は人々の心を動かし続けるに違いない。



キャスト ()内は声の出演です
 ナレーター (奥田 民義)
 (杉田 智和)